

平成 24年度 環境保全レポート (CES 報告書)



僕たちの会社は、こんな会社で、
環境問題に立ち向かってます。

ニシトクは地球からいただいた大切な資源
を上手に使う「環境循環型社会」の形成に
取り組んでおります。
次世代の子供たちに、より良い自然環境を
確実に引き継いでいくことを「志」として、未
来へ良い環境を作ります。



本社



須田工場

2014年8月1日

株式会社 ニシトク

目次

I. 組織の概要	P 1
II. 環境理念及び環境方針	P 2
III. 環境保全の対象範囲と対象期間	P 3
IV. 環境保全組織	P 3
V. 環境数値目標及び活動計画	P 3
VI. 業務に関する許可証及び施設の状況	P 5
VII. 環境保全活動の実績	P 6
VIII. 活動の評価と24年度の目標	P 8

I. 組織の概要

会社名	株式会社 ニシトク
代表者	代表取締役 西村道博
所在地（本社工場・須田工場・田上倉庫）	
	<本社工場> 〒959-1381 新潟県加茂市新栄町9-36 TEL 0256-52-4811 FAX 0256-52-1229
	<須田工場> 〒959-1303 新潟県加茂市後須田字二反詰2584-1
	<田上倉庫> 〒959-1513 新潟県南蒲原郡田上町川船河甲1350-137
E-Mail	qqma8d79n@ion.ocn.ne.jp
設立	1954年3月1日
資本金	1,000万円
従業員数	8名（平成24年2月現在）
主な事業内容	<ul style="list-style-type: none">・再生資源回収及び再生資源加工販売・一般廃棄物収集運搬及び処分（行政委託事業を含む）・産業廃棄物収集運搬及び処分（中間処理圧縮）

Ⅱ．環境理念及び環境方針

【環境理念】

株式会社ニシトクは、主たる事業である再生資源の回収、廃棄物の収集運搬及び処分において、環境法令を遵守し、全社員参加の下、資源の有効利用と廃棄物の適正処理に努めると共に、持続可能な経営と環境保全を目指す。

【環境方針】

1. 事業として扱う廃棄物全てを分類し、再生資源化を高め、資源の有効利用に寄与する。
2. 環境負荷の低減を図る為、具体的に次のことに取り組む。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - ・化石燃料の使用量の削減
 - ・電気使用量の抑制
 - (2) 自社発生廃棄物の削減
 - (3) 水の使用量の削減
 - (4) グリーン購入の推進
3. 環境関連法規・条例を遵守し改善目標を設定・計画し実行する。
4. 上記環境方針の達成の為、環境目標を設定し、コンパクトエコシステムに基づき業務を遂行する。

制定日：2012年3月20日

株式会社 ニシトク

代表取締役 西村道博

Ⅲ. 環境保全の対象範囲と対象期間

1. 環境保全の対象範囲

- (1) 本社及び須田工場・田上倉庫
- (2) 社有車

2. 環境保全対象期間

平成24年3月1日～5月31日 3カ月間、引続き25年2月まで実施

Ⅳ. 環境保全組織

1. 環境保全体制

当社はコンパクトエコシステム（CES）に基づき下記の環境保全体制を構築した。

- (1) 環境保全総責任者（EGM）・・・西村道博（社長）
- (2) 実行責任者（PM）
 - 二酸化炭素排出削減・・・西村道博
 - 廃棄物の削減・・・石井亨
 - 水の使用量の削減・・・坪谷浩司
 - グリーン購入の推進・・・西方美紀
- (3) 保全担当者（PP）・・・全社員

2. 環境保全対策会議

- (1) 全社員で環境問題の対策を検討し、保全を推進する。
- (2) 参加者：西村道博、西村泰三、藤田義夫、小柳健一
西方美紀、小野沢和彦、坪谷浩司、石井亨（8名）

Ⅴ. 環境保全の取組項目と目標

1. 環境保全の取組項目

- (1) エネルギー（自動車燃料、電力）
- (2) 廃棄物（自社排出一般廃棄物）
- (3) 水（上水）
- (4) グリーン購入

2. 環境目標

[1] 二酸化炭素排出削減

(1) 自動車燃料の削減

主な取り組み	内容	担当
・全車両の省エネ運転の推進	・燃費向上チェックシートの作成 ・車両担当者を定め、燃費表を作成してパソコンで管理、分析する。	全社員
・全車両の定期点検の実施		
・燃費効率の向上		
・アイドリングストップの徹底		
・BDFの使用率の向上	・対象車両の使用量の促進	

(2) 電気使用量の削減

主な取り組み	内容	担当
・室内温度管理 夏28℃・冬19℃の徹底	・PR掲示物で全社員に周知する。	全社員
・待機電力カットの徹底	・終業時に確認。	
・未使用時の消灯の徹底 (本社工場・須田工場・事務所)	・休憩時間の消灯の確認。 ・こまめな消灯を全社員で取り組む。	

[2] 自社廃棄物排出量の削減

主な取り組み	内容	担当
・分別を徹底し、再利用・再生利用率の向上 (本社工場)	・分別を徹底して再利用及び再生利用率を上げる。	石井
・分別を徹底し、再利用・再生利用率の向上 (須田工場)		
・分別を徹底し、再利用・再生利用率の向上 (事務所)		
・会議資料の電子化の徹底	・ペーパーレス化の実施	
・裏紙の使用、封筒の再利用の徹底		
・不要FAXは印刷しない		
・不要郵便物は返却する。		

[3] 水使用量の削減 (節水)

主な取り組み	内容	担当
・水道メーターの点検	・3カ月に1回点検する。	坪谷
・クーリングタワーの点検、清掃	・半年に1回点検する。	
・散水、洗車削減	・トラックスケール内の雨水の有効利用	
・トイレの排水 (水量の調整)	・トイレタンクに充填ペットボトルを入れる。	

[4] グリーン購入の推進 (事務用品)

主な取り組み	内容	担当
・コピー用紙・名刺・パンフレット※ ₁ (再生紙)	・グリーンマーク商品を購入又は詰め替え商品を利用。	西方
・事務用品 (グリーンマーク付商品)		
・タイヤ※ ₂ (再生・低燃費)		

VI. 業務に関する許可証及び施設の状況

(1) 業務に関する許可

一般廃棄物処分業許可	加茂市 加清許可第1号	収集運搬	有効期間	H25年5月 9日
一般廃棄物処分業許可	田上町 許可第6号	収集運搬	有効期間	H25年3月31日
一般廃棄物処分業許可	三条市 許可第18号	収集運搬	有効期間	H25年3月31日
一般廃棄物処分業許可	長岡市 長岡市指令環業第115号	収集運搬	有効期間	H24年6月30日
新潟県廃棄物 再生事業者	登録番号(登) 6第601号		登録年月日	H 6年9月 1日
新潟県・産業廃棄物収集運搬業許可	許可番号1503085284	収集運搬	有効期間	H24年6月 9日
廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず・ゴムくず・金属くず・ガラスくず・コンクリートくず及び陶器くず・がれき類 (積み替え保管を除く)				
新潟市・産業廃棄物収集運搬業許可	許可番号5901085284	収集運搬	有効期限	H24年8月21日
廃プラスチック類・紙くず・木くず・金属くず・ガラスくず・コンクリートくず及び陶器くず・がれき類 (積み替え保管を除く)				
産業廃棄物処分業許可	許可番号1523085284	中間処理圧縮	有効期間	H28年7月 9日
廃プラスチック類・金属くず				

(2) 施設の状況

再生資源収集加工・一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬

本社工場 再生資源収集加工

パッカー 4 t	最大積載量	2,000 kg	2台
アームロール 4 t	最大積載量	2,750 kg	3台
ダンプ 2 t	最大積載量	2,000 kg	1台
フォークリフト	最大積載量	2,500 kg	1台
フォークリフト	最大積載量	2,000 kg	1台
フォークリフト	最大積載量	1,500 kg	1台

須田工場 産業廃棄物中間処理施設 (圧縮処理) 一般廃棄物中間処理施設

バックフォーマグネット付	最大積載量	0.9 m ³	1台
フォークリフト	最大積載量	2,000 kg	1台
フォークリフト	最大積載量	1,500 kg	1台

処理品目 廃プラスチック類・金属くずの圧縮処理

処理能力 廃プラスチック類 12.36 t/日

金属くずの圧縮処理 15.45 t/日

保管場所の面積 廃プラスチック類 7.50 m²

金属くず 171.79 m²

廃プラスチック類・金属くずの混合物 36.75 m²

処理施設 アリゲータープレス (圧縮処理) 廃プラスチック類・金属くず

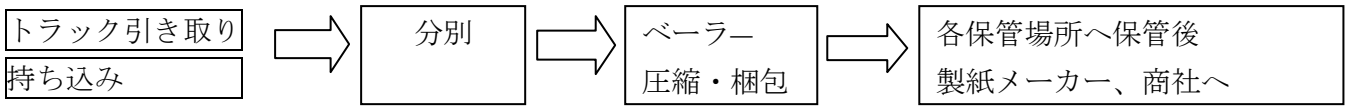
田上倉庫 再生資源製品ストックヤード

フォークリフト	最大積載量	1,500 kg	1台
---------	-------	----------	----

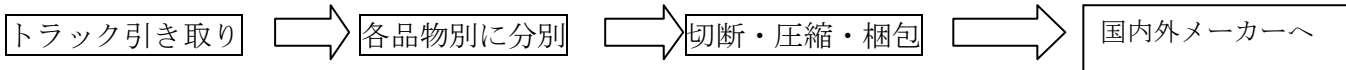
(3) 引き取り品加工工程図

本社工場

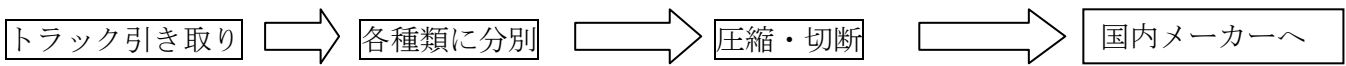
<古紙類>



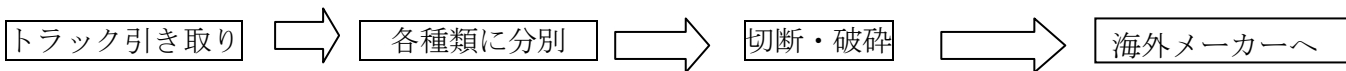
<非鉄類>



<鉄屑類>



<プラスチック類>



VII. 環境保全活動の実績

1. エネルギー使用量と二酸化炭素排出量への取り組み

(第1表) エネルギー使用量と二酸化炭素排出量<平成24年3月~5月>

		(A) 24年3月~5月		(B) 23年3月~5月		(A-B) 増減量		前年比
		使用量	CO2排出量	使用量	CO2排出量	使用量	CO2排出量	CO2排出量
購入電力 kw		3,964	1,506.3	3,299	1,253.6	+665	252.7	120.2%
自動車	ガソリン(ℓ)	811	1,881.5	983	2,280.5	-172	-399	82.5%
	軽油(ℓ)	3,056	8,006.7	1,962	5,140.4	+1,094	2,886.3	155.8%
灯油(ℓ)		0	0	210	522.9	-210	-522.9	——
合計			11,394.5		9,197.4		2,197.1	123.9%
従業員数(人)		8		8		0		100%
1人当たりの量		1,424		1,149		+275		123%
営業時間数(H)		536h		512h		+24		104.0%
営業1時間当たりの量		21.3		18.0		+3.3		118.3%

2. 廃棄物の削減への取り組み

第2表 廃棄物の発生量、再使用量と処分量<24年 3月~24年 5月>

2-1 廃棄物等種類		発生量 kg	再使用量 kg	処分量 kg	再資源化率 %	
		(イ)	(ロ)	(イ-ロ=ニ)	(ロ/イ x100%)	
事業系一般廃棄物	紙類	段ボール	0	0	0	
		コピー用紙	13	13	0	100%
		その他の紙	38	38		100%
						0%
	かん				0%	
	ビン				0%	
	ペットボトル			0	0%	
	紙パック				0%	
	発泡スチロール等				0%	
	プラスチックごみ				0%	
	厨芥ごみ	13.2		13.2	0%	
	紙ごみ	3.3		3.3	0%	
	粗大ごみ				0%	
	その他可燃ごみ				0%	
	その他不燃ごみ				0%	
小計		67.5	51	16.5	75.5%	
産業系廃棄物等	木くず			0	0%	
	金属くず			0	0%	
	廃プラ			0	0%	
	混合物			0	0%	
	ガラス			0	0%	
				0	0%	
2-8 上記中計		0	0	0	0%	
2-9 特別管理廃棄物				0	0%	
2-10 廃棄物等総合計		67.5	51	16.5	75.5%	

3. 水使用量への取り組み

<第3表>水使用量 <平成24年3月~5月>

種類	24年4~6月 m ³	23年4~6月	増減	増減率
上下水道	8	8	0	0%
地下水				
雨水				
合計	8	8	0	0%

4. グリーン購入の実績

3～5月 3カ月間の主なグリーン購入品目

区分	品目	摘要
事務用品 紙類		今回は購入なし
事務用品 その他		今回は購入なし
タイヤ（再生・低燃費）		今回は購入なし

VIII. 活動の評価と24年度の目標

1. 24年度3～5月の活動に対する評価

[1]二酸化炭素排出削減

(1) 自動車燃料の削減

- ・燃費向上チェックシートの記入及び燃費表を作成し、パソコンで管理したことにより、自分の担当している車両がどれくらいの燃費か確認することができた。それによって月ごとの燃費に差があることが分かった。よりエコドライブを推進していかなければならないと思う。
- ・昨年に比べ軽油の使用量が増加しているが、本年度は冬期間が長かったためBDFの使用開始が遅れたことが原因と考えられる。BDF使用開始時期の見極めが課題である。

(2) 電気使用量の削減

- ・昨年度と比較すると増加した。原因としては冬期間が長かったため、エアコン及びストーブの使用が長引いたためと思われる。エアコン及びストーブの温度管理や衣服を多く着る等、さらなる工夫をしたいと思う。

[2]自社発生の廃棄物

- ・紙類に関しては95%以上リサイクルできている。その他の廃棄物についてはより細かい分別をすることで更なる削減を目指す。

[3]水使用量の削減

- ・定期漏水確認、手洗い場・トイレ・事務所・休憩場の節水実行を朝礼及び展示物でPRし、今後とも節水へのアイデアを計画し実行する。

[4]グリーン商品の購入

- ・事務用品等は使用量が少ない為今回は購入がなかった。次回購入時から、グリーンマーク付商品又は詰め替え商品を購入する。
- ・作業用品は、フォークリフト、トラックのタイヤ交換は再生タイヤへ変更し、バッテリーはリユース品へトライしている。今後性能確認が取れたものから使用を増やしていく計画である。

2. 今年度1年間の取組の目標

(1) 数値目標

二酸化炭素排出量、購入電力量、ガソリン使用量、軽油使用量、水使用量とも、-0.2%・廃棄物は-1%の目標とする。

灯油の使用量は-10%/年と定めた。

BDFは試験的に使用開始、目標値は2011年度を基準とし+10%/年と定めた。

目標項目	単位	基準値(2011年度)	2012年度	2013年度
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	80,839		
実績値	総量(kg-CO2)			
増減	%	-0.2		
購入電力量	総量(KWh)	25,407		
実績値	総量(KWh)			
増減	%	-0.2		
ガソリン使用量	総量(ℓ/年)	6,836		
実績値	総量(ℓ/年)			
増減	%	-0.2		
軽油使用量	総量(ℓ/年)	22,703		
実績値	総量(ℓ/年)			
増減	%	-0.2		
水使用量	総量(m ³ /年)	181		
実績値	総量(m ³ /年)			
増減	%	-0.2		
自社発生廃棄物	総量(kg/年)	152.2		
実績値	総量(kg/年)			
増減	%	-1		
灯油使用量	総量(ℓ/年)	743		
実績値	総量(ℓ/年)			
増減	%	-10		
BDF使用量	総量(ℓ/年)	6,157		
実績値	総量(ℓ/年)			
増減	%	+10%		

(2) 活動目標

全社員で気づいたことは、随時情報を共有し改善を図るようにする。